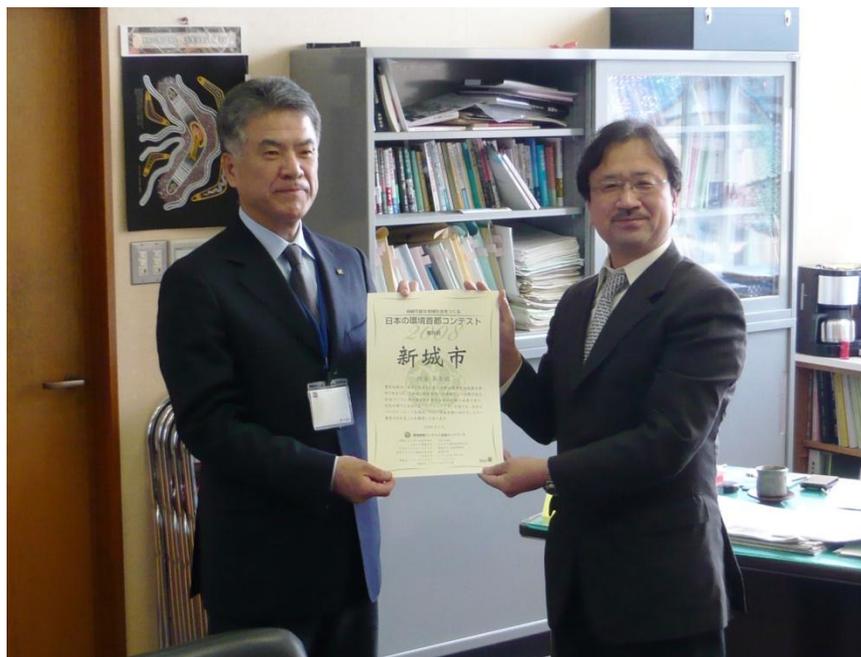


## II 環境関連の主な事業 (参考資料)



# 新城市総合計画の体系

戦略の方向	
目標が達成された姿	個別目標(施策)
<b>基本戦略① 市民自治社会創造</b>	
1-1. 市民と行政が協働する「山の湊」を創る	
1-1-1 市民参加や協働がしやすい環境が整っている	重点 1-1-1-1. まちづくりの協働体制を整備します 重点 1-1-1-2. 情報の発信と共有を進めます
1-1-2 広域連携・交流が進んでいる	重点 1-1-1-3. 市民ニーズを把握します 1-1-2-1. 広域連携・交流を進めます
1-2. 市民が主役の「山の湊」を創る	
1-2-1 市民が主体的に地域の課題を解決しようとしている	重点 1-2-1-1. 市民活動を応援します 重点 1-2-1-2. 地域内分権の担い手を組織します
1-2-2 市民同士の交流や融和が進んでいる	1-2-2-1. 市民交流を進めます 1-2-2-2. 市民融和を進めます
1-2-3 男女共同参画の意識が浸透している	1-2-3-1. 男女共同参画社会をつくります 1-2-3-2. 男女平等意識の浸透を進めます
1-2-4 国際化への対応が進んでいる	1-2-4-1. 多文化共生を進めます 1-2-4-2. 国際交流活動を応援します
<b>基本戦略② 自立創造</b>	
2-1. 地域の魅力を発信する「山の湊」を創る	
2-1-1 市内に多くの人々が訪れている	重点 2-1-1-1. 地域資源を活かした観光戦略を進めます 2-1-1-2. 観光施設を有効に活用します
2-1-2 光ファイバーネットワークを活用した情報の発信が盛んである	重点 2-1-2-1. 利用可能な情報システムの拡大を進めます 2-1-2-2. 光ファイバネットワークを有効に活用します
2-2. 活気や賑わいを生み出す「山の湊」を創る	
2-2-1 森林が適正に管理され、林業が営まれている	重点 2-2-1-1. 森林の保全・整備を進めます 2-2-1-2. 林業生産活動を応援します 2-2-1-3. 林業基盤の整備を進めます
2-2-2 地産地消や消費者交流など、生命をつなぐ魅力ある農業が営まれている	重点 2-2-2-1. 農業生産物の消費拡大を進めます 2-2-2-2. 農業生産活動を応援します 2-2-2-3. 農業基盤の整備を進めます
2-2-3 まちの賑わいと働く場が確保されている	2-2-3-1. 魅力ある商店街づくりを応援します 重点 2-2-3-2. 企業誘致を進め、雇用を確保します 2-2-3-3. 頑張る中小企業を応援します
2-3. 人が集い暮らす「山の湊」を創る	
2-3-1 快適に移動できる交通体系が整備されている	重点 2-3-1-1. 公共交通網の整備と利用向上を進めます 2-3-1-2. 道路網の整備を進めます
2-3-2 快適に暮らせるまちになっている	2-3-2-1. 活気がある市街地をつくります 2-3-2-2. 安全な水を届けます 2-3-2-3. 下水を処理し水環境を守ります 2-3-2-4. 公園、墓園の整備を進めます 重点 2-3-2-5. 良質な住宅の整備を進めます
2-4. 地域の文化と人を育む「山の湊」を創る	
2-4-1 歴史文化財が継承・活用されている	2-4-1-1. 歴史文化財を継承します 2-4-1-2. 歴史文化財の紹介・活用を進めます
2-4-2 子どもが健やかに育っている	2-4-2-1. 確かな学力と郷土愛を育む学校づくりを進めます 2-4-2-2. 地域ぐるみで青少年の健全育成を進めます
2-4-3 いつでも学べる場が用意され、文化・スポーツ活動が盛んに行われている	2-4-3-1. 市民文化活動を応援します 2-4-3-2. 市民スポーツ活動を応援します 2-4-3-3. 生涯学習活動を応援します

<b>基本戦略③ 安全・安心の暮らし創造</b>	
<b>3-1. 健康に暮らせる「山の湊」を創る</b>	
3-1-1 地域の医療体制が整っている	重点 3-1-1-1. 病院、診療所の体制を整えます 重点 3-1-1-2. 地域医療の連携を進めます
3-1-2 みんなが健康づくりに努めている	3-1-2-1. 予防医療を進めます 3-1-2-2. 健康づくりを応援します
<b>3-2. みんなで支え合う「山の湊」を創る</b>	
3-2-1 地域で子育てを応援する意識が広がっている	重点 3-2-1-1. 子どもを生む環境を整えます 重点 3-2-1-2. 子どもを育てる環境を整えます 重点 3-2-1-3. 保育ニーズに対応する保育サービスを進めます
3-2-2 誰もが生きがいを持って社会に参加している	重点 3-2-2-1. 地域内福祉・相互扶助活動を進めます 3-2-2-2. 高齢者の生きがい対策を進めます 3-2-2-3. 障害者の自立を支援します
<b>3-3. 安全に暮らせる「山の湊」を創る</b>	
3-3-1 災害に強いまちづくりができている	重点 3-3-1-1. 地震・防災対策を進めます 重点 3-3-1-2. 災害対応能力を強化します 重点 3-3-1-3. 消防体制を強化します
3-3-2 地域ぐるみの安全対策が進んでいる	3-3-2-1. 防犯活動を進めます 3-3-2-2. 交通安全対策を進めます 3-3-2-3. 消費者支援活動を進めます
<b>基本戦略④ 環境首都創造</b>	
<b>4-1. 環境首都「山の湊」を創る</b>	
4-1-1 環境への理解が浸透している	4-1-1-1. 地域の環境を学びます 4-1-1-2. 地域の環境を調査し紹介します
4-1-2 良好な自然環境が保全されている	4-1-2-1. 農村環境を保全します 4-1-2-2. 森林環境を保全します 4-1-2-3. 水辺環境を保全します
4-1-3 地球温暖化に向けた循環型のライフスタイルが浸透している	重点 4-1-3-1. 循環型社会への取り組みを進めます 4-1-3-2. 廃棄物の適正処理を進めます

## 事業の評価

①必要性	行政の関与の妥当性
②有効性	施策や成果目標の達成手段としての効果・有効性
③効率性	投入労力・時間・費用に対する効果の度合
④公平性	受益の偏向性、受益者負担割合の妥当性・見直しの余地
⑤適時性	社会経済情勢及び総合計画の基本戦略・PJとの整合性、緊急性

4段階評価による  
総合評価に分類

総合評価	目安(各項の条件がどれか1つに該当し、かつ上位評価の条件でないこと。)	事業見直しの必要度
A	●総合点12点以上、かつ必要性・有効性2点以上	事業見直しの必要度が低い (計画どおりの事業実施など)
B	●総合点8点～11点、かつ必要性・有効性2点以上 ●必要性3点 ●適時性3点	↑ ↓
C	●総合6～7点、かつ必要性・有効性2点以上	
D	●総合点5点以下 ●総合点8点以下、かつ必要性・有効性1点以下	事業見直しの必要度が高い (休・廃止、入れ替えなど)

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1	
個別目標	1	地域の環境を学びます					
基本方針	子どもから高齢者まで多くの市民が地域の豊かな自然環境を学ぶことのできるよう野外学習会や観察会、自然講座等の定期開催と充実を進めます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
<b>【文化課】</b> <b>野外学習会の開催</b>		学習会参加者の満足度	-	-	80%	参加者アンケートを実施し満足度を調査	
		参加者数	375	361人	430人	参加者数の把握、参加者数/計画数	
		実施数	8回	9回	9回	実施数/計画数	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	2				
		有効性	3				
		効率性	2				
		公平性	3				
		適時性	2				
		20年度総合評価	12				
担当課判定	A						
<b>主な活動記録</b>		博物館の各分野の学術委員を講師として、1年を通じ様々な学習会を開催。					
		◆自然をたのしく学ぶ学習会					
		①鳳来寺山カラ沢谷の植物を楽しむ〔鳳来寺山東側の溪谷〕 20年5月6日(祝) 参加人数 50人					
		②鳳来寺山の地質(日本の地質百選現地学習)〔鳳来寺山〕 20年5月18日(日) 参加人数 24人					
		③鳳来寺山で初夏の生きものとモリアオガエルなどを観察しよう〔鳳来寺山〕 20年6月1日(日) 参加人数 35人					
		④貝塚と博物館見学〔田原市吉胡貝塚資料館他〕 20年7月6日(日) 参加人数 21人					
		⑤森の生きものを観察しよう〔鳳来寺山〕 20年8月16日(土)~17日(日) 参加人数 18人					
		⑥きのこを調べよう〔作手鬼久保広場内リフレッシュセンター〕 20年10月19日(日) 参加人数 75人					
		⑦風切山の秋の紅葉を楽しむ〔日吉地内風切山〕 20年11月30日(日) 参加人数 42人					
		⑧豊川の水鳥を観察しよう〔桜淵公園周辺〕 21年1月11日(日) 参加人数 36人					
⑨冬の自然探検〔鳳来寺山〕 21年2月8日(日) 参加人数 60人							
市民協働指数	③	・実施場所、観察内容等の工夫。 ・市民の積極的な参加のための広報と理解者の拡大。					
	双方対等						
		課題					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1	
個別目標	1	地域の環境を学びます					
基本方針	子どもから高齢者まで多くの市民が地域の豊かな自然環境を学ぶことのできるよう野外学習会や観察会、自然講座等の定期開催と充実を進めます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【文化課】 子ども自然講座の開催		講座参加者の満足度	-	-	80%	受講者アンケートを実施し満足度を調査	
		参加者数	-	145人	80人	受講者数の把握、受講者数/計画数	
		実施数	4回	4回	4回	実施数/計画数	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	2				
		有効性	2				
		効率性	2				
		公平性	2				
		適時性	2				
		20年度総合評価	10				
担当課判定	B						
主な活動記録		<p>子どものころから自然の中で、石や虫、草花を観察したり遊んだりしながら、郷土の自然に親しみ、その魅力や大切さを実感する機会として、「子ども自然講座」を開催。</p> <p>◆子ども自然講座</p> <p>①食べられる植物、薬になる植物〔鳳来寺山自然科学博物館〕 20年7月20日(日) 参加人数 10人</p> <p>②金鳳石で硯を作ろう〔鳳来寺山自然科学博物館〕 20年7月23日(水) 参加人数 18人</p> <p>③サワガニや川ムシとあそぼう〔門谷地区、音為川〕 20年8月3日(日) 参加人数 16人</p> <p>④ジュニアナチュラリスト養成楽級「森の学校 山ざる教室」</p> <p>I 植物の見分け方、調べ方(桜淵公園) 20年5月11日(日) 参加者 26人</p> <p>II 森ときのか(桜淵公園) 20年6月8日(日) 参加者 28人</p> <p>III 秋を味わおう(桜淵公園) 20年11月8日(土) 参加者 24人</p> <p>IV 森の構造をみる(桜淵公園) 20年12月7日(日) 参加者 23人</p>					
市民協働指数	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの興味を引き出す講座内容を工夫。</li> <li>こどもの受講環境の整備。</li> </ul>					
	双方対等	課題					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1	
個別目標	1	地域の環境を学びます					
基本方針	子どもから高齢者まで多くの市民が地域の豊かな自然環境を学ぶことのできるよう野外学習会や観察会、自然講座等の定期開催と充実を進めます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【文化課】 屋根のない博物館 ガイドツアーの開催		ツアー参加者の満足度	-	-	80%	アンケート実施（段階5評価）×20	
		参加者数	-	50人	40人	参加者数／目標×100	
		実施数	0	2	2回	実施回数／目標数	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	2				
		有効性	2				
		効率性	2				
		公平性	2				
		適時性	2				
		20年度総合評価	10				
担当課判定	B						
主な活動記録		新城市に広がる様々な自然環境を巡るガイドツアーを開催し、多様で変化に富んだ郷土の自然環境に対する認識を深めるとともに、人材の育成をし、自然環境の保全と共生のまちづくりをめざす。					
		「大断層・愛知の中央構造線」現地見学ツアー					
		第1回 5月9日（金） 参加人数 32名					
		第2回 5月15日（木） 参加人数 18人					
市民協働指数	③	・指導者、現地案内人の育成が重要である。 ・市民の積極的な参加と理解者の拡大を進める必要がある。 ・子どもの興味を引き出す講座内容を工夫する必要がある。 ・子どもの受講環境を整備する必要がある。					
市民協働指数	双方対等	課題					

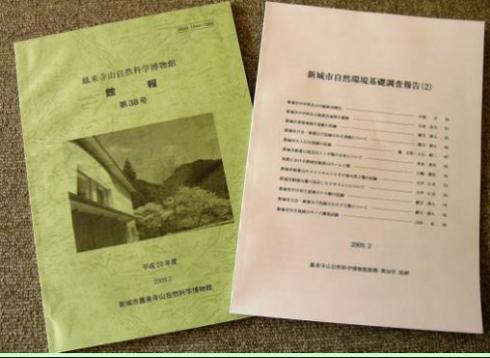
重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1	
個別目標	2	地域の環境を調査し紹介します					
基本方針	自然環境の基礎調査を通じ、市内に生息する動植物のデータベースの作成や分布状況の把握、紹介を進め、希少種の保護と市民理解・学習の促進、市の魅力発信につなげます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【文化課】 自然環境基礎調査の実施		調査地域	新城地区	市内全域既存資料収集	—	報告書（館報）の執筆と発行／年	
		調査内容・項目	—	動物・植物・地質	—	調査内容、項目等の確認と検証	
		調査報告書の提出	館報に掲載（5件）	館報38号	年1回発行	館報等へ調査結果の報告（執筆）件数	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	2				
		効率性	3				
		公平性	2				
		適時性	2				
		20年度総合評価	12				
担当課判定	A						
主な活動記録		<p>自然環境基礎調査の結果をもとに、絶滅の恐れのある動植物等、野生生物の生息・生育状況を解説した資料集を作成する。</p> <p>平成20年度は、新城・鳳来・作手地域の既存資料調査と収集、調査体制の整備、調査方法の検討、予備調査を実施した。</p> <p>現地調査内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舟着山の昆虫相</li> <li>・中宇利大入川の魚類相</li> <li>・作手長の山湿原のクモ類、両生類、船着山の鳥類相</li> <li>・作手高原の菌類</li> <li>・中宇利丸山、作手、大野、県民の森、阿寺の植生</li> <li>・中宇利の植物相</li> <li>・新城地域の哺乳類</li> <li>・新城地域の植物</li> <li>・新城地域の蘚苔類</li> </ul>					
市民協働指数	③	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家と市民、ボランティア等の協力で調査態勢を整えて推進。</li> <li>・調査研究報告、標本等の資料の収集。</li> <li>・調査方法、地域を明確にし、精度の高い調査を行う。</li> </ul>				
	双方対等						

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1
個別目標	2 地域の環境を調査し紹介します					
基本方針	自然環境の基礎調査を通じ、市内に生息する動植物のデータベースの作成や分布状況の把握、紹介を進め、希少種の保護と市民理解・学習の促進、市の魅力発信につなげます。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
		館報の発行	館報37号	館報38号	年1回発行	年1回発行／担当職員把握
		事業に対する評価 ※1				
		必要性	2			
		有効性	1			
		効率性	3			
		公平性	2			
		適時性	2			
		20年度総合評価	10			
		担当課判定	D			
【文化課】 新城版レッドデータブックの作成	主な活動記録	自然環境基礎調査の結果をもとに、絶滅の恐れのある動植物等、野生生物の生息・生育状況を解説した資料集を作成する。				
		平成20年度は、既存資料の調査と収集、調査体制の整備、調査方法の検討、予備調査を実施した。				
		現地調査内容				
		・舟着山の昆虫相				
		・中宇利大入川の魚類相				
		・作手長の山湿原のクモ類、両生類、船着山の鳥類相				
		・作手高原の菌類				
		・中宇利丸山、作手、大野、県民の森、阿寺の植生				
		・中宇利の植物相				
		・新城地域の哺乳類				
・新城地域の植物						
・新城地域の蘚苔類						
市民協働指数	③ 双方対等	課題	・専門家と市民、ボランティア等の協力、連携体制を構築し、精度の高い情報収集が必要である。			
			・愛知県及び環境庁のレッドデータブックを参考にする。			
			・環境基礎調査をもとに新城の保全すべき自然について検討を加える。			

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		環境への理解が浸透している			総合計画 体系コード	4-1-1
個別目標	2 地域の環境を調査し紹介します					
基本方針	自然環境の基礎調査を通じ、市内に生息する動植物のデータベースの作成や分布状況の把握、紹介を進め、希少種の保護と市民理解・学習の促進、市の魅力発信につなげます。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
		館報の発行	館報37号	館報38号	年1回発行	館報への調査結果の執筆・掲載
		事業に対する評価 ※1				
		必要性	2			
		有効性	3			
		効率性	2			
		公平性	2			
		適時性	2			
		20年度総合評価	11			
		担当課判定	B			
【文化課】 新城市史「自然編」の発行	<p>合併後市制10周年を記念して新城市の自然環境の実体を調査、地学、植物等について市内全域にわたり調査する。調査の結果を踏まえ、新城市史「自然編」として刊行し、広く市民に周知し、郷土の自然の理解と愛着を深めるとともに将来への資料とする。</p> <p>平成20年度は、既存資料の調査と収集、調査体制の整備、調査方法の検討、予備調査を実施した。</p>					
	<p>主な活動記録</p> <p>現地調査内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・舟着山の昆虫相</li> <li>・中宇利大入川の魚類相</li> <li>・作手長の山湿原のクモ類、両生類、船着山の鳥類相</li> <li>・作手高原の菌類</li> <li>・中宇利丸山、作手、大野、県民の森、阿寺の植生</li> <li>・中宇利の植物相</li> <li>・新城地域の哺乳類</li> <li>・新城地域の植物</li> <li>・新城地域の蘚苔類</li> </ul>					
	<p>市民協働指数</p> <p>③</p> <p>課題</p> <p>平成25年発行予定の自然環境基礎調査報告書をもとに新城の自然誌をまとめる。</p>					
	<p>双方対等</p>					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2	
個別目標	1	農村環境を保全します					
基本方針	農地の多面的機能の発揮と、農村特有の豊かな自然環境や美しい景観、文化や営みに触れることのできる空間づくりに向け、地域住民による景観保全活動や都市住民との交流などの取り組みを進めます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【鳳来地域整備課】 棚田の保全		イベント参加者数	200人	200人	300人	各種組織（団体）役員に依頼し、年度末に報告	
		見学者数	10,000人	13,000人	14,500人	ふるさと水と土指導員に依頼し、年度末に報告	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	2				
		有効性	3				
		効率性	3				
		公平性	1				
		適時性	2				
		20年度総合評価	11				
		担当課判定	B				
ボランティアによる棚田の環境整備や、都市部住民の稲作体験、自然観察会等を行う。							
【千枚田周辺の環境整備】							
地域住民による景観整備として、千枚田入口付近やふれあい広場などの草刈り作業を実施したほか、道路にかかる木々の抜木や枝打ち作業などを実施。							
【上島田稲作オーナー制度】							
平成20年度は、前年度参加した5組が再度参加し、田んぼの維持・保全を実施。リピーターとしての参加が定着してきている。							
【ボランティアの参加と交流】							
鞍掛山麓千枚田保存会などの地域住民を中心に、数多くの取り組みを進めており、横浜ゴム(株)新城工場の新入社員研修、アストラゼネカ株式会社の支援活動など毎年恒例となったボランティアと地域住民による環境整備活動などを実施。その他、市外のさまざまな団体も受け入れており、稲作体験の実施などを積極的に行っている。							
市民協働指数	④	・経済効率の面や担い手の減少から農地の荒廃化が進み、農地の多面的機能の発揮に支障を来す事態が懸念される。					
	市民主導	課題					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2	
個別目標	1	農村環境を保全します					
基本方針	農地の多面的機能の発揮と、農村特有の豊かな自然環境や美しい景観、文化や営みに触れることのできる空間づくりに向け、地域住民による景観保全活動や都市住民との交流などの取り組みを進めます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【農業振興課】 県営水環境整備事業 (重川池) (一部再掲)		自然観察会	-	-	-	H23以降、自然観察会実施を検討	
		学校活動の場	-	-	-	学校活動の場としての利用を検討	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	3				
		効率性	3				
		公平性	2				
		適時性	3				
		20年度総合評価	14				
		担当課判定	A				
主な活動記録		平成20年度には、親水デッキL=45.3m、親水護岸L=18.2m、管理用道路L=28.5m、東屋1箇所、トンボ池1箇所の整備が終了し、平成21年度以降に残りの親水デッキ、親水広場、散策用道路等の整備を行っていきます。					
市民協働指数	②	・経済効率の面や担い手の減少から農地の荒廃化が進み、農地の多面的機能の発揮に支障を来す事態が懸念される。					
	行政主導	課題					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2	
個別目標	1	農村環境を保全します					
基本方針	農地の多面的機能の発揮と、農村特有の豊かな自然環境や美しい景観、文化や営みに触れることのできる空間づくりに向け、地域住民による景観保全活動や都市住民との交流などの取り組みを進めます。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
<b>【農業振興課】</b> ため池の保全 (一部再掲)		潰廃件数	0箇所	0箇所	0箇所	潰廃届けによる確認、年度末	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	3				
		効率性	3				
		公平性	2				
		適時性	3				
		20年度総合評価	14				
		担当課判定	A				
		老朽化したため池の保全のため、平成20年度には万福寺池の堤体 L=27.0m、取水施設1箇所の整備を行い、平成21年度には堤体 の残りの部分L=34.5mの整備を行います。また、順次川上池、 凡池等の整備を進めていきます。		主な活動記録			
市民協働指数	②	・経済効率の面や担い手の減少から農地の荒廃化が進み、農地の多面的機能の発揮に支障を来す事態が懸念される。					
行政主導	課題						

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2																												
個別目標	1	農村環境を保全します																																
基本方針	農地の多面的機能の発揮と、農村特有の豊かな自然環境や美しい景観、文化や営みに触れることのできる空間づくりに向け、地域住民による景観保全活動や都市住民との交流などの取り組みを進めます。																																	
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法																												
<b>【農業振興課】</b> 農地・水・環境保全向上 対策(再掲)		環境向上活動参加者	-	4,017人	3,900人	最終目標値22年度 3,900人																												
		生物の生息状況調査	16地区	11地区	16地区	最終目標値21年度 16地区																												
		活動事務説明会・補完業務			4回																													
		事業に対する評価 ※1																																
		必要性	3																															
		有効性	3																															
		効率性	3																															
		公平性	2																															
		適時性	3																															
		20年度総合評価	14																															
担当課判定	A																																	
<b>【平成20年度の活動組織】</b>		農地の保全、開水路・農道等施設の適正な管理保全による長寿命化とともに、農村環境や生態系の保存のための取り組みを行う活動組織を支援。																																
主な活動記録	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地区名</th> <th>活動組織名</th> <th>地区名</th> <th>活動組織名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上平井</td> <td>上平井地域環境保全隊</td> <td>豊島</td> <td>豊島環境保全会</td> </tr> <tr> <td>片山</td> <td>片山地域環境保全隊</td> <td>田代</td> <td>田代地域環境保全隊</td> </tr> <tr> <td>牛倉</td> <td>牛倉地域環境隊</td> <td>黒瀬</td> <td>黒瀬美土里会</td> </tr> <tr> <td>鳥原</td> <td>鳥原地区環境保全会</td> <td>善夫</td> <td>善夫守里隊</td> </tr> <tr> <td>浅谷</td> <td>浅谷地域の環境を守る会</td> <td>菅沼</td> <td>菅沼を良くしまい会</td> </tr> <tr> <td>石田</td> <td>石田の地域環境を守る会</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		地区名	活動組織名	地区名	活動組織名	上平井	上平井地域環境保全隊	豊島	豊島環境保全会	片山	片山地域環境保全隊	田代	田代地域環境保全隊	牛倉	牛倉地域環境隊	黒瀬	黒瀬美土里会	鳥原	鳥原地区環境保全会	善夫	善夫守里隊	浅谷	浅谷地域の環境を守る会	菅沼	菅沼を良くしまい会	石田	石田の地域環境を守る会						
	地区名	活動組織名	地区名	活動組織名																														
	上平井	上平井地域環境保全隊	豊島	豊島環境保全会																														
	片山	片山地域環境保全隊	田代	田代地域環境保全隊																														
	牛倉	牛倉地域環境隊	黒瀬	黒瀬美土里会																														
	鳥原	鳥原地区環境保全会	善夫	善夫守里隊																														
	浅谷	浅谷地域の環境を守る会	菅沼	菅沼を良くしまい会																														
	石田	石田の地域環境を守る会																																
市民協働指数	②	課題	・経済効率の面や担い手の減少から農地の荒廃化が進み、農地の多面的機能の発揮に支障を来す事態が懸念される。																															
	行政主導		・活動計画に基づく共同活動が実践されていると認められるが、取り組みの質的向上が求められる。																															

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2
個別目標	2 森林環境を保全します					
基本方針	木材供給や水源涵養、国土保全、動植物の生息の場、保健休養、二酸化炭素吸収と酸素供給、地球温暖化防止などの多面的機能を有する森林を保全し活用するため、森林の適正管理と市民による森づくり等を進めるとともに、広域機能を維持増進させるための新たな仕組みづくりを研究します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
		参加者数		239人	80%	参加者数 (実施毎の集計を基に把握)
		満足度・理解度		80%	100%	参加者アンケートの実施
		NPO等との連携状況		累計1件	累計2件	連携状況の件数
		事業に対する評価 ※1				
		必要性	3			
		有効性	2			
		効率性	3			
		公平性	3			
		適時性	3			
		20年度総合評価	14			
		担当課判定	A			
【森林政策課】		地域再生計画「森林総合産業の創出」の一環として、森林を対象とした体験学習を開催する。				
市民参加の森づくりの推進		【しんしろ森の学校 (初級コース)】				
		・ 6回開催 (場所: 庭野市有林)				
		・ 参加者 のべ184人 (応募者、真剣隊ほか)				
		・ 整備面積 1.3ha				
		【市民管理の森づくり (中級コース)】				
		・ 5回開催 (場所: 富岡 五葉の森、黒田市有林、門谷市有林ほか)				
		・ 参加者 のべ160人 (応募者、真剣隊ほか)				
		・ 整備面積 1.0ha				
		【森林ボランティアリーダー養成講座 (上級コース)】				
		・ 9回開催 (場所: 庭野市有林、門谷いろいろの森、門谷市有林)				
		・ 参加者 のべ97人 (応募者、真剣隊ほか)				
		・ 整備面積 0.9ha				
市民協働指数	②	課題 ・ 将来、民間活力を最大限引き出すため、この地域にあった森林総合産業の事業提案を早急に出す必要がある。 ・ 市内全域での広大な計画区域となるため、計画的で効率的かつ効果的な事業を行う必要がある。				
	行政主導					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2	
個別目標	2 森林環境を保全します						
基本方針	木材供給や水源涵養、国土保全、動植物の生息の場、保健休養、二酸化炭素吸収と酸素供給、地球温暖化防止などの多面的機能を有する森林を保全し活用するため、森林の適正管理と市民による森づくり等を進めるとともに、広域機能を維持増進させるための新たな仕組みづくりを研究します。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
<b>【森林政策課】</b> 水源林の整備 (再掲)		除間伐等実施面積	見込213.62ha	269.38ha	235ha	実績面積／目標面積／年度末	
		作業路新設延長	見込1490m	1179.2m	1250m	実績延長／目標延長／年度末	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	3				
		効率性	3				
		公平性	2				
		適時性	3				
		20年度総合評価	14				
		担当課判定	A				
主な活動記録		豊川水系の水資源の安定確保を図るために、市の水源かん養林保全のための森林整備を行うことで、森林の多面的な機能の発揮と林業の振興を図る。 具体的な内容としては、単層林を整備するための人工造林(植栽)、下刈り、枝払い、除伐、間伐を行った。また、森林施業をするための作業道を3路線整備した。					
市民協働指数	①	課題	・将来、民間活力を最大限引き出すため、この地域にあった森林総合産業の事業提案を早急に出す必要がある。				
	行政主体		・市内全域での広大な計画区域となるため、計画的で効率的かつ効果的な事業を行う必要がある。				

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		良好な自然環境が保全されている			総合計画 体系コード	4-1-2
個別目標	2 森林環境を保全します					
基本方針	木材供給や水源涵養、国土保全、動植物の生息の場、保健休養、二酸化炭素吸収と酸素供給、地球温暖化防止などの多面的機能を有する森林を保全し活用するため、森林の適正管理と市民による森づくり等を進めるとともに、広域機能を維持増進させるための新たな仕組みづくりを研究します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
		林業事業体の確立	-	-		林業事業体確立の有無
		林業事業体の育成	-	-		林業事業体育成の有無
		事業に対する評価 ※1				
		必要性	3			
		有効性	2			
		効率性	2			
		公平性	2			
		適時性	3			
		20年度総合評価	12			
		担当課判定	A			
【森林政策課】 森林資源の調査・研究 (再掲)		<p>平成21年2月28日に、新城文化会館を会場として、「森の力を暮らしの力に！」と題する森林学習会を実施した。内容は、『身近にありすぎて気づかない「森」の持つ本来の力を知り、新しい森と人との関わり方や、この地域の豊かな資源である「木」の使い方を、森の作家と森を使い尽くす社長が語りつくす！』をテーマとして、二人の講師によるセッション（討論）方式で実施された。</p> <p>主な活動記録 市内外から多くの参加者が集まり、森林のもつ潜在的な力・新しい可能性を模索した。</p>				
市民協働指数	②	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来、民間活力を最大限引き出すため、この地域にあった森林総合産業の事業提案を早急に出す必要がある。</li> <li>・市内全域での広大な計画区域となるため、計画的で効率的かつ効果的な事業を行う必要がある。</li> </ul>				
	行政主導					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		水への環境を保全します				総合計画 体系コード	4-1-2		
個別目標	3 水辺の環境を保全します								
基本方針	県下でも貴重な資源とされる中間湿原群の保全を図るとともに、流下能力の劣る河川を環境保全・観察のフィールドとして整備します。 また、市内河川の水質調査や水生生物調査等を通じ、身近な水辺環境の保全への理解を深めます。								
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法			
【土木課】 多自然型川づくりの推進		多自然型工法の採用	-	1箇所採用	1箇所採用	環境に配慮した河川改修の確認			
		野生生物の確認	-	確認の有無	確認の有無	野生生物の生息状況を確認			
		事業に対する評価 ※1							
		必要性	3						
		有効性	1						
		効率性	2						
		公平性	3						
		適時性	3						
		20年度総合評価	12						
		担当課判定	B						
主な活動記録		準用河川五反田川河川改修を行いました。							
		【植生ブロック】							
		施行箇所/メートル： 128m							
		【斜路式落差工】							
		施行箇所/メートル： 13m							
市民協働指数	①	課題 ・ 中間湿原群は広く点在するため、保全には行政、市民、団体の連携が必要である。 ・ 多自然型河川は事業費が高額となる。							
	行政主体								

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます				
基本方針		環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取組を市民と行政が協働しながら展開します。				
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
		累計発電容量	586kw	667kw	1000kw	電力会社との契約容量累積
		補助キロワット数対前年比	—	154.30%	100%	前年度補助kw数との比率
		緑のカーテン取組者数	2団体	6団体	80団体	市役所内試行セクション及び一般取組家庭数
		事業に対する評価 ※1				
		必要性	3			
		有効性	2			
		効率性	2			
		公平性	2			
		適時性	3			
		20年度総合評価	12			
		担当課判定	A			
【環境課】		【住宅用太陽光発電設置費補助】				
		・24基、102.94kw、2,151千円				
エコオフィスの推進 (環境行動配慮事業)		【モニター制度開始】				
		・省エネナビ (配電盤設置型家庭用電気使用量表示機) 17名				
		・エコワット (コンセント設置型家庭用電気使用量表示機) 1名				
		・自動車用燃費計 6名				
		・マイバッグ 11名				
		【緑のカーテン事業】				
		・庁内試行 6箇所				
		【エコドライブ講習会】				
		・愛知県、JAF、豊川市、新城市で共同開催 12名参加				
		【低公害車導入促進事業】				
		・燃料電池自動車、電気自動車を借受け、体験乗車会などを通じてPR				
市民協働指数	②	・再生可能エネルギーへの対応。				
	行政主導	・モニター制度などに対する住民へのPR。				

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3	
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます					
基本方針		環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取組を市民と行政が協働しながら展開します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【環境課】 エコアクションの推進 (環境活動改善事業)		講座への出席者数	151人	459人	120人	市民環境講座への出席者数	
		学習会の実施回数	25回	13回	30回	水生生物調査・環境講座の実施回数	
		エコアクション事業への参加者数	1000人	1500人	1650人	キャンドルナイト、マイ6などへの参加者数	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	3				
		効率性	2				
		公平性	2				
		適時性	2				
		20年度総合評価	12				
担当課判定	A						
【環境課】 エコアクションの推進 (環境活動改善事業)		【市民環境講座開催】					
		・高度1万円からのメッセージ～現役機長が語る温暖化の真実～ 405人					
		・地球温暖化～頻発する気象異常や身の回りの出来事との関連～ 54人					
		【水生生物調査】					
		・7小学校、2中学校 計9回実施					
		・子ども会等2地区実施（石田、豊島）					
		【キャンドルナイト新城】					
		・実行委員会方式により実施（2幼稚園、11保育園、一般2団体参加）					
		【チーム・マイナス6%PR】					
		・登録者数合計318人、イベント等において随時実施。					
		【温暖化に関する出張授業】					
		・1幼稚園、5保育園、1団体に実施					
		【親と子の環境講座】					
・夏休み期間2回実施							
【親と子の走る環境教室】							
・夏休み期間2回実施							
市民協働指数	③	課題 ・環境講座に対する市民ニーズの把握 ・水生生物調査要望に対する対応（全てのニーズに対応できていない） ・市内団体、市外団体との連携					
	双方対等						

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます				
基本方針	環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取組を市民と行政が協働しながら展開します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
		環境報告書作成ほか	年次報告書作成、基本計画策定中	年次報告書作成、基本計画策定	年次報告書作成、基本計画進行管理	事業進捗の達成度
		ISO連絡会議開催	4回	5回	4回	市内事業所とのコミュニケーション数
		アジェンダ21の策定	-	-	計画策定	説明会(研修含む)の開催数
		事業に対する評価 ※1				
		必要性	3			
		有効性	2			
		効率性	2			
		公平性	3			
		適時性	3			
		20年度総合評価	13			
		担当課判定	A			
【環境課】		【環境報告書】				
		・年次報告書として作成				
エコガバナンスの推進 (環境連携構築事業)		【ISO認証取得事業所等連絡会議】				
		・定例開催4回(5月、8月、11月、2月)				
		・臨時開催1回(3月:悪臭防止法について)				
		【環境首都コンテスト全国フォーラム】				
		・11月6～7日 飯田市にて開催:参加				
		主な活動記録				
市民協働指数		②		課題		
		行政主導		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民自治基本条例と行政評価システムとの関連づけ</li> <li>・総合計画と連動し実効性を持たせるものとするため、計画・実施・評価を市民・事業所・行政(関係部署の積極的な参加・協力)と協働して行うことが必要。今後の環境技術や新たな課題に左右されることがあるため、計画の見直し等は的確に判断する。</li> </ul>		

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	1	循環型社会への取り組みを進めます				
基本方針	環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の実現に向けて、ごみの減量対策や資源の再利用・再資源化をはじめ、新エネルギーの普及に向けた助成や情報提供、ごみの不法投棄防止や公害の未然防止等への対策を、日常生活の仕組みとして確立する取組を市民と行政が協働しながら展開します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
		不法投棄通報件数	65件	60件	65件	市が回収処理に関した総件数
		クリーンフェスタ参加者数	3750人	3842人	4000人	参加者総数
		不法投棄の巡回件数	-	3回	4回	不法投棄重点地域パトロール巡回数
		事業に対する評価 ※1				
		必要性	3			
		有効性	2			
		効率性	2			
		公平性	2			
		適時性	2			
		20年度総合評価	11			
		担当課判定	B			
【生活衛生課】 不法投棄の監視		主な活動記録	【不法投棄への対応】			
			・ 県及び地域環境保全委員との不法投棄重点地域合同パトロール 新城・鳳来・作手各地区 各1回			
			・ 生活環境委員へ監視の依頼と不法投棄に関する情報収集			
			・ 通報による回収処理 60件			
			・ ポイ捨て禁止、不法投棄禁止などの警告看板を希望者に配布			
			・ 市民参加による清掃事業「しんしろクリーンフェスタ」を開催 2回			
			・ 地域住民や市民団体、事業所が自主的に実施する清掃活動に対し、 ごみ袋等の資材の提供、回収したごみの処理等の支援			
市民協働指数	②	課題	・ 不法投棄発生の未然防止			
	行政主導		・ 民地内で発生する事例への対応			

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
【生活衛生課】 汚泥処理センターの整備		施設の稼働	—	—	施設整備基本計画作成業務委託	平成29年度稼働開始
		旧施設の撤去	—	—	—	平成30年度末
		事業に対する評価 ※1				
		必要性	3			
		有効性	3			
		効率性	3			
		公平性	3			
		適時性	3			
		20年度総合評価	15			
		担当課判定	A			
	平成20年度は、2基あった曝気ブロワーモーターを1基にして処理効率を図るとともに、薬品の注入方法を手動から自動運転に切り替えたことで施設の維持管理経費の軽減と処理効率を高めた。					
	主な活動記録					
市民協働指数	①	・環境保全を目指した生活排水処理の推進を図り経済運転を行うこと。				
	行政主体					

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3	
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます					
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。						
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法	
【生活衛生課】 埋立処分場の整備		事業の進捗	施設の維持管理	施設の維持管理	地元・地権者交渉	適正な維持管理	
		事業に対する評価 ※1					
		必要性	3				
		有効性	3				
		効率性	3				
		公平性	3				
		適時性	3				
		20年度総合評価	15				
		担当課判定	A				
		主な活動記録		有海処分場において本年度は、埋立残余年数があと何年で満杯となるかの調査を行った。その結果、今後の発生残灰量によって一概にあと何年と決めることはできないが、埋立残余年数は、6, 7年程度であることが判明した。			
市民協働指数	②	課題	有海埋立処分場は、自然公園区域内に在り一般廃棄物処理施設の建設が困難であるため、施設の拡張は難しい。このため、新たな処理場所の選定をするか、処理方法の再検討をする必要がある。				
	行政主導						

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
		市全地区週2回収集	2359人	2730人	0人	未収集地区における収集拡大人口
		減量化のためのPR活動	19箇所	9箇所	30箇所	説明会等開催回数
		事業に対する評価 ※1				
		必要性	3			
		有効性	3			
		効率性	2			
		公平性	1			
		適時性	2			
		20年度総合評価	11			
		担当課判定	B			
【生活衛生課】 廃棄物の収集運搬・収集処理		<p>クリーンセンター西側に資源物を保管する施設としてストックヤード（資源集積センター558㎡）を建設、20年度から稼動し、廃棄物収集車両の管理及び収集、運搬、処理をより効率良く行えるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資源集積センター一般搬入件数 988件</li> <li>・資源集積センター（資源ごみ・有害ごみ）保管量 646ト</li> </ul>				
		主な活動記録	<p>可燃ごみ収集を市全域週2回にするため、鳳来地区の一部区域（富保、浅畑、下平、東矢田、寺林、大峠、引地、小川、本久、大野）に拡大し収集を実施した。</p>			
市民協働指数	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみの分別及び減量化の徹底</li> <li>・全市可燃ごみ収集週2回の早期完全実施</li> </ul>				
	双方対等	課題				

重点推進事業の進捗状況

目標が達成された姿		地球温暖化防止に向けた循環型のライフスタイルが浸透している			総合計画 体系コード	4-1-3
個別目標	2	廃棄物の適正処理を進めます				
基本方針	市民生活から排出される資源ごみ、可燃ごみ、不燃ごみなどの適正な処理、処分場の整備と適正な管理により、良好な市民生活環境を確保します。					
主な事業		成果指標	基準年 (H19)	実績 (H20)	目標 (H23)	成果指標の計測方法
		水質検査	基準値達成	基準値達成	項目ごとの基準値	検査項目毎に月1回の検査
		機械施設の点検・補修	機械施設の点検・補修	機械施設の点検・補修	機械施設の点検・補修	年次整備計画の整備状況確認
		事業に対する評価 ※1				
		必要性	3			
		有効性	3			
		効率性	2			
		公平性	3			
		適時性	3			
		20年度総合評価	14			
		担当課判定	A			
【生活衛生課】 最終埋立処分場の維持管理		埋立処分場の安全な運営と維持管理 ・鳥原処分場へ回収・搬入された埋立ごみや粗大ごみから金属類を回収し再生利用したほか、可燃物と不燃物に分別した後、破碎処理を行い、他の2箇所(七郷一色と作手菅沼)の埋立処分場への運搬を考慮しながら効率的に埋立作業を実施。 ・鳥原処分場内の破碎処理施設(自走式破碎机)の更新 ・小学生対象鳥原処分場見学会開催 222名				
		主な活動記録        				
市民協働指数	①	・鳥原、七郷、作手の最終埋立処分場の一体的な運用				
	行政主体	課題				